

## 第38回例会

# 2014.11.22(土) 19:00~21:00(終了後、懇親会有り)

対象／医療関係者 参加料／2,000円

※当日受付にてお支払いください。(受付にて領収書を発行致します)

IOMは大森・東京歯科口腔外科、理事長新保悟を中心として、口腔医療に携わる全ての人達で作るスタディグループです。オープンな勉強会ですので、どなたでも気軽にご参加いただけます。どうぞ、お知り合いの先生もお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。※テーマは毎月変わります。

## 第38回 主な演者

鶴見大学インプラント科  
野村歯科医院院長  
歯学博士

## 野村隆祥 先生

日本口腔インプラント学会 指導医  
日本顎顔面インプラント学会 指導医  
日本顎顔面補綴学会 認定医  
横浜口腔インプラント研究会 施設長



### 講演内容

①野村先生【**神経システムとインプラント治療**】というテーマでご講演頂きます。「1960年代から臨床応用が開始された初期のインプラント治療は手探りでゆっくりと開始されましたが、最近では再生医療を含めた高度なインプラント治療がハイスピードで進化しています。このためには、生体システムの基礎的全体像を理解することが必須と考え、今回は特に理解しにくい神経システムをわかり易くご説明していくつもりです」 ※詳細は裏面記載。

②大信貿易株式会社様に【**バイオリペアPROの可能性！マルチナインプラントの特徴！**】について、ご講演頂きます。バイオリペアPRO:アロナールを超えた品質で、インプラントにも安心して使用できる歯磨剤 ※ともに特典(情報)もございます。(価格/サンプル)

### 会場

Luz大森 4F 入新井集会室  
東京都大田区大森北1-10-14

### お申し込み (お問合わせ)

IOM事務局／大森・東京歯科口腔外科  
担当: 安田  
TEL/FAX/E-mailで承ります。  
●TEL: 03-5767-7505  
●FAX: 03-5767-7508  
(FAXの場合は下記ご記入の上、送付願います。)  
●E-mail: soushinkai.yasuda@gmail.com

### Facebook

当スタディグループのページ有り。【IOM】でご検索下さい。  
Facebook上でも同イベントの申込を受けつけております。



11月22日に参加する / 参加できない 次回以降の案内を希望する

貴院/貴技工所/貴社名

ご参加者名

E-mail

ご住所 〒

TEL ( )

FAX ( )

# 神経システムとインプラント治療

インプラント治療に際し基礎医学がどのように関与していくかということは重要な課題となりますが、今回は特に理解しにくい神経システムをいくつかのパートに分けて判り易く説明したいと思ひます。下段はその一部を記載してましたので御参考にして下さい。

地球が 46 億年前に宇宙に出現し、生物が誕生したのは 38 億年頃と言われます。モゾモゾ動く細菌もクラゲのように海中を浮遊する生物も生きていくためには外界の刺激を感知し、素早く対応するシステムが必要です。5 億年前に脊椎動物が出現する前の生物の神経組織はヒドラのように散在型や神経節を中心としたカゴ型やハシゴ型でした。全ての神経を統合し、コントロールをするシステムはホヤの幼虫が神経管を創造したことから始まり、これが脊椎動物の神経組織の原点となったシステムです (図 1, 2, 3)。

図 4 はヒトの脳の発生を左から右へみたものです。図 5 は生体の 3 種類のニューロンで、神経システムの司令塔となる統合機能を持つ介在ニューロン、感覚機能の感覚ニューロン (求心性ニューロン)、運動機能の運動ニューロン (遠心性ニューロン) 示す。図 6 は感覚神経末端の皮膚の感覚受容器を示す。

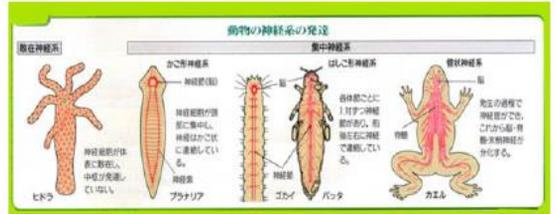


図 1: カゴ型やハシゴ型神経組織, 両生類神経管

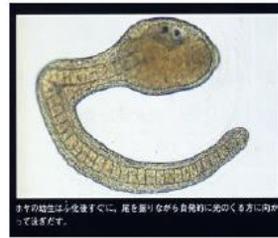


図 2: ホヤの幼虫と目 (神経管内の黒点 2 ヶ)



図 3: 神経管の断面

## 6 ヒトの脳の発生

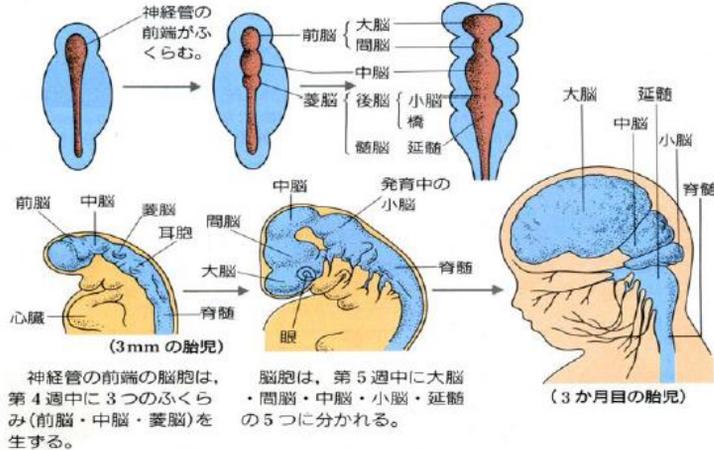


図 4: 上段左から下段右に向って神経管が複雑に進化する過程

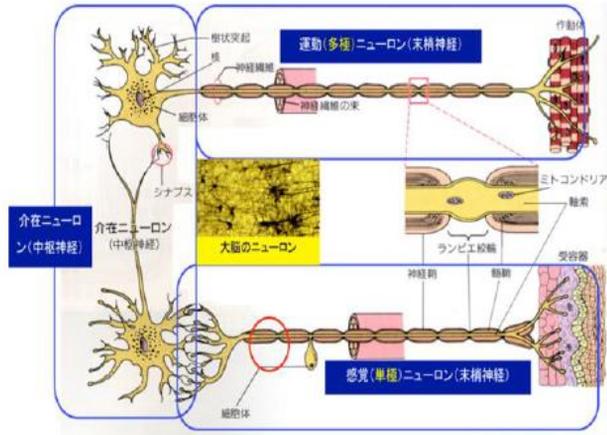


図 5:

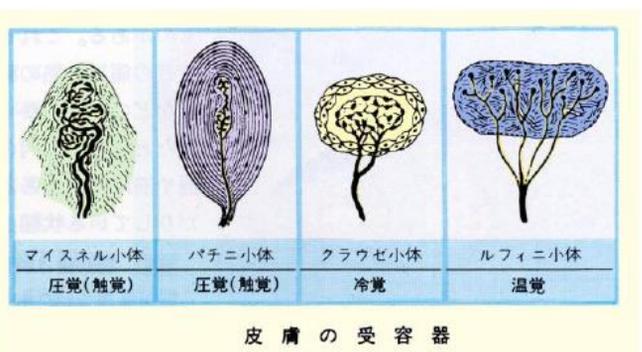


図 6: 感覚神経末端の感覚受容器

皮膚の受容器